

退職者に贈る言葉

人生への情熱

広島大学長 原田康夫



のたび本学より五十八名の方が退職される。長年広島大学に勤めていただき、広島大学の発展のために人生の大半を捧げられた方々です。

昨年の広大統合移転完了記念事業は、全学一丸となって取り組んだ一つの大きな思い出でもあり、かつての学園紛争ももう遠い昔のこととなり、今では懐かしい出来事のようにさえ思えます。ようやく広大が東広島キャンパスへ統合され、真の総合大学へと発展する矢先であるだけに、皆さんが去って行かれるのは、私としてはつらい気持ちであります。とは言え、皆さん健康で退職されるわけですから、やはり、おめでとございますという言葉で送るべきでしょう。

さて日本の政治も不透明で、退職しても昔のように何もしないで暮らせる時代ではないようで、どなたもいろいろと考えておられることでしょう。やはり退職時に一番大切なのは健康であり、これからの人生に対する意欲であります。これからの目標を十分に定め、その方向に向けて情熱を持って歩

むことが、老いなき秘訣ではないでしょうか。それには何か仕事以外の、自分の好きな事をするのが大切です。

私は、義母（八十九歳）ともう三十年以上も一緒に暮らしていますが、足も、眼も不自由であるのに、義母は毎日絵を描いています。私は身近な花、果物などの画材を、朝出勤する時に義母がいつも座るソファの前において出て来ますが、帰った時には、小さなキャンパスに何等かの形にしています。昭和三年東京女子美の卒業ということではありますが、絵を描くという毎日毎日の精進が心の安定をもたらすようで、若い頃は喘息持ちでいつ死ぬか分からないと言われていたにもかかわらず、今なお元気に過ごしています。年を取ってもいつまでも楽しめるものは好きな芸事だけかな、と最近では思いました。

どうか皆様、これからは健康に気をつけられ、楽しく充実した人生を送っていただくことをお祈りして、お祝いの言葉といたします。長い間、御苦勞様でした。

教官退職者

総合科学部ヨーロッパ研究講座

戸田吉信

昭37・4 (金沢大学)  
49・6 総合科学部

昔日ノ鯉鯢誇ルニ足ラス

記憶の片隅に眠っていた一編の漢詩が、このところ何かと思ひ出されます。作者は孟郊（字は東野、七五〜八一四）という人で、冒頭の一句を受けて、「今朝放蕩ニシテ思ひ涯テ無シ 春風意ヲ得テ馬蹄疾シ 一日看尽クサン長安ノ花」と続きます。

四月一日、春眠を心ゆくまでむさぼりたい、まさに無上の放蕩ではないか。女房よ、新聞をもて、煙草、茶をもて。春風はわが意を得るがごとく、馬ならぬ車の足取りは早い。女房よ、しかと運転せよ。目指すはむろん、ひねもすのたりのたりの瀬戸の海。

都合よく翻訳すれば、こういったことになるとでしょうか。ただし、実際にはこうはいかないと思います。全身の骨が肉から離れてばらばらになったように、多分、しょぼくれているでしょう。四十六歳にしてやつと進士の試験に合格し、意気揚々とこの詩をものとした作者ですが、実人世、官途においては不遇だったようです。

長い間、お世話になりました。五十周年の記念祭に、またお伺いしたいと思います。

先生のご専門は近代フランス文学で、ご研究の結晶は、ずっしりとしたご本の「プロペール

研究」となっています。また先生は釣りが好きで、この数年、評議員、学部長、学長補佐、という要職にあつて、お忙しいにもかかわらず、ゼミ生や院生をひき連れて釣りに行かれ、彼らにフランス文学研究の醍醐味だけでなく、釣りのおもしろさをも味あわせておられます。この四月からもある大学院大学でお仕事をなさいますので、お好きなだけ釣りに没頭できる時がくるのはまだ先のことのようにです。

(総合科学部ヨーロッパ研究講座 木幡 藤子 記)



大学生たちと、釣った魚で魚飯 わが研究室恒例の野外ゼミ風景

総合科学部自然環境研究講座

浅井富雄

昭34・3 (京都大学)  
34・10 (気象研究所)  
42・12 (京都大学)  
48・4 (東京大学)  
平5・4 総合科学部

退官後もアラスカなどの紡錘虫の研究を続けていかれるとのこと。先生のご健康とご研究の発展をお祈りしています。

(総合科学部自然環境研究講座 於保 幸正 記)

総合科学部自然環境研究講座

武森重樹

昭36・4 (大阪大学)  
39・9 (金沢大学)  
50・7 総合科学部



広島大学を改革する最初のステップとして創設されたばかりの総合科学部に、私は昭和五十年に赴任しました。この学部は、旧来の学部体制から脱皮する一つの試金石として注目されましたが、現実の道は険しく、教官、学生共に幾多の困難にぶつかりながら、大学院博士課程の設置など教育研究の組織作りを奔走する毎日でした。

東千田キャンパスの総合科学部を見渡せば、アカデミックな風格に欠けた建物や手狭な研究室、何一つをみても失望するものばかりでしたが、東広島新キャンパスへ移転することによってこれらの問題は解消し、ようやく本格的な研究ができる環境体制が確立されたこと

退職者は語る



宮田賢二氏らと恐羅漢山にて (1995.5.6)

三年足らずの短い在職期間ではありましたが、大変恵まれた自然と人間の環境の中で存分に働かせていただきました。皆様から感謝を申し上げます。大勢の新しい友人・知人を得たことともに、新入生から大学院生まで幅広い多くの学生に接することができたのは大きな喜びでした。

これまで私が執筆した図書のいくつかは、大学教養課程を対象としたものもありますが、実は長年の大学生活で一〜二年生を担当したことがありませんでした。この初めての経験は大いに得るところがあり、反省もさせられました。それを参考に、理系、文系を問わず初年級向け副読本「ローカル気象学」を書き上げることができました。

今から四十数年前、私が大学入学後間もなく、ある先生が「生徒のいない学校は学校ではないが、生徒のいる大学は大学ではない」といわれ、印象深く今も思い出されます。大学では学生といえども先生の同志であるという気持ちで教育にあたられていました。残念ながら、今日の大学にそのままではまらなくなりつつあり、そのことが現在の大学改革の背景にあります。

二度目の停年ということは三度目もあり得るということで、なおしばらく教育・研究を続け、残り短い余生を有意義に過ごしたいと思っています。広島大学が特色ある拠点大学の一つとしてますます発展し、有為の人材を輩出し続けることを願っています。

東大海洋研の所長を最後に、東大をご退官後に本学部へ来ていただいた。私たち教官も学生も、学者としてのVIPに親しく接することができ、多くのことを教わることができた。

国内外の各種会議に同席させていただく機会も与えてくださったが、いっどこに居ても笑顔で優しく応待してくださり、人間的にもVIPそのもの。もっと早くから師事したかったと悔やまれる。

ユーモアも解し、近隣を旅行した際も学生や事務員から慕われ、トータルで学部にとけこんでくださった。

(総合科学部自然環境研究講座 福岡 義隆 記)

総合科学部自然環境研究講座

佐田公好

昭37・4 広島大学分校  
39・4 教養部  
49・6 総合科学部

昭和四十四年の春に外国から帰り、本部キャンパス正門のバリエードを見て脚が震えた。構内の異常さが日常に埋没するようになった頃、封鎖解除があった。夜警をしたことや教養部新館の五階から机が降ってきたことなど、今も時折思い出される。

総合科学部玄関前の記念碑の一つ





昭和三十六年に工学部庶務係に奉職し、しばらくして大学院の設置準備に忙殺され、昭和三十八年四月にやっと工学研究科ができたことを思い出します。

昭和四十年から共通講座の応用数学教室に移り、現在まで、一員として図書館関係に従事してまいりました。とても充実した日々を送らせていただき感謝しています。その間に大学紛争があり、工学部が封鎖された日はちょうど日直勤務にあたり、慣れない電話交換を手伝い、苦労したことが思い出されます。

工学部のあった千田町はとても閑静なところで、環境がとても気に入っていました。昭和五十七年に西条に移転となり、移転当時のキャンパス周辺は道路も交通の便も悪く苦労しました。最近になって「やっと大学らしい雰囲気になった」と思ったら、定年を迎えることになりました。未完成のまま去るのは残念ですが、これからはますます発展することを願っております。

西条の町は、以前に較べて近代化が進みつつあり、十年後はもっとすてきな学園都市ができていくことでしょう。皆さんの今後の活躍を期待しています。

退職後は、自分にあつたものを見つけ、ボランティアができれば、と思っております。

部局歴が語っていますように、板垣さんはお勤めのすべてを工学部で、しかも昭和四十年からはずっと応用数学教室で事務をお執りになりました。

工学部が他学部へ先駆けて現所在地に移転したときも、そのお住まいを呉から広島駅近くに移され、まさに和文タイプライターからワー

口の時代までの三十一年間を、当教室の事務責任者の役を果たされたことは、私どもにとって願ってもないことでした。ご退職後は、お元気でそして少しは朝寝坊されて、宮仕えでないご身分を満喫され、ますます若返ってください。

板垣さん、長い間ありがとうございました。(工学部応用数学講座 瀬藤 憲昭 記)

Table with 2 columns: Department (部局) and Tenure (部局歴). Includes entries for 庶務課, 工学部, 医学部, 総合科学部, 理学部, and 原爆放射能医学研究所.

94年のバスハイキングで若い人達と



月日の立つのは早いもので、他人事のように思っていた退職の日がまいました。私はいろいろな学部を廻ったお陰で、たくさん素敵な先生や先輩・同僚にお会いすることができ、その方々から大変良くしていただき、決して色褪せることも尽きることもない、楽しい思い出と言ふ宝の山を戴きました。そして、いつもその方々から声を掛けられるたびに若かった自分に返ることができ、十分と心が和みました。

このたび大過なく定年を迎えることができますのは、多くの方々の温かいお力添えの賜物と深く感謝し、厚く御礼申し上げます。これからは下手な絵でも描きながら、年に何回かは海外旅行でもして、楽しく過ごしたいと思っております。

最後に、皆様がたのご健康と広島大学のますますの発展を、心より祈りました。

永田和歌恵さんは、平成三年に、原爆放射能医学研究所附属国際放射線情報センターの事務官として来られました。

それまではずっと庶務畑の事務官として各学部を回られたことでした。当センターでは、原爆の被爆関係の資料の調査、整理を担当されてきました。特に、関連書籍の整理、新聞記事のファイリングなどでは、地味ではありますが、専門的な知識をもとに努力を重ねられ、現在ではセンターの重要な資料となっております。たいへんありがとうございます。

今後ともご健康に留意され、新しい第二の人生をお過ごしください。(原爆放射能医学研究所附属国際放射線情報センター 星 正治 記)

原爆放射能医学研究所附属国際放射線情報センター 小久保 公子 (部局歴) 昭和31・7 (広島原子爆弾影響研究所) 50・4 原爆放射能医学研究所

人事院総裁賞授賞式会場 明治記念会館

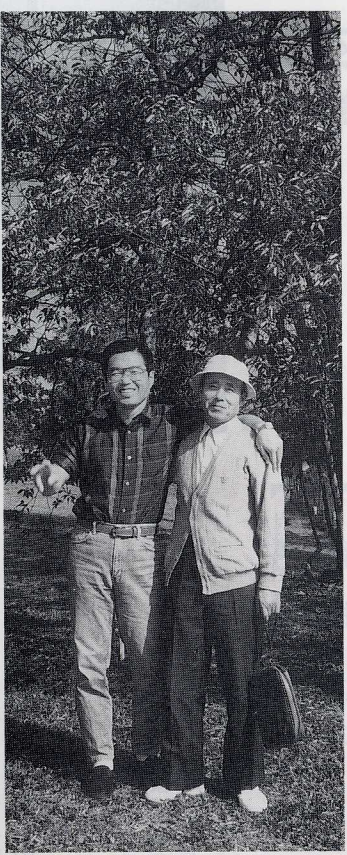


比治山の上にあるABCから原研にまわりましたのは、昭和五十四年のことでした。私は、厚生省から文部省への転属ということになり、広島大学との縁が始まったわけです。原研では、被爆者の個人調査資料を整理統合し、被爆者のデータベースを作成するという仕事に関わることになりました。それまで、ABCでも被爆者のマスターファイルに関連した仕事をしていましたので、「被爆者の(姓名、生年月日)をたよりに、他の資料中の個人を同定する」という業務には、比較的スムーズに取り組みことができました。ふりかえってみると、昭和二十一年に始まる膨大な被爆者の実態調査資料に埋もれて原研で二十二年でした。これら調査資料に記入されている被爆者一人ひとりの克明な記述が、私を励まし、この仕事を続けさせてくれたような気がしております。

附属図書館

吉田 邦 万 (部局歴) 昭33・5 附属図書館

昭和三十七年に東雲分校(現学校教育学部)分館に奉職して、早くも三十四年が過ぎ、このたび定年を迎えることになりました。



図友会バスハイキング 三次風土記の丘にて(右)

これまでご指導いただきました先生方、ともに苦労を分かち合った疫学・社会医学研究分野、生物統計部門(旧)、国際放射線情報センターの皆様、本当に有難うございました。小久保公子さんは、昨年「人事院総裁賞」を受賞され、原研の国際放射線情報センターの名前、いや存在を全国に知らしめてくださった人です。おっとりとした人間で来た大人(失礼かな?)で、センターの若い人(を)をよくまとめ、二十年以上にわたり被爆者研究の縁の下力持ちとなってくださいました。まだまだ外見も、頭も非常に若々しく、魅力のある方で、もう定年とは全く信じられません。今後も被爆者研究の手助けをお願いします。(原爆放射線情報センター長 早川 式彦 記)

在職中の思い出はいろいろありますが、なかでも、東雲分校混声合唱団パストラルの一人としての発表会への参加、また、大学紛争等の出来事等が懐かしく思い出されます。また、昨年は学部の移転が完了して、キャンパスは学生たちの声が賑やかになりました。退職後は、自然の中で土と親しみながら第二の人生を歩んでいきたいと思っています。私が今まで勤められたことは、先輩、同僚皆様方のご指導の賜物と深く感謝いたしております。最後に、広島大学の発展と皆様方のご健勝を心より祈り申し上げます。ありがとうございます。

吉田さん、三十余年の長い間の、図書館ひとすじのお勤め、本当に苦勞さまでした。お元気で定年を迎えられ、おめでとうございます。旧東雲分校分館を皮切りに、旧本館、医学分館、西条分館(現東図書館)と、ひたすら円満に努めてこられました。とくに、お年を召してからの西条勤務は、通勤が大変だったと思えます。しばらく休養される由、ごゆっくりとお休み下さい。今後共、よろしくお願ひいたします。(附属図書館 石橋 民生 記)

附属学校部

藤川 行 平 (部局歴) 昭31・5 医学部附属病院 39・4 医学部附属病院業務課 45・4 教養部 49・6 総合科学部 57・10 医学部 59・4 文学部 平元 4 学校教育学部 5・4 附属学校部

広島大学での約四十年の生活は、私にとつては生涯の全てとも言えるものでした。青春があり、晩年がありました。喜びもあり、悲しみもあり、苦悩もありました。その長い四十年になろうとする広島大学の生活を終えて思うことは、私のような我が儘な人間に「広島大学」がいかに寛容にしてくれたか、ということでした。

「広島大学」と一口で言いますが、「一人」を抜きにしては語れません。数多くの人々との出会いは、私の人生に一番の彩りを与えていただきました。ある意味では、この「人」との邂逅が私の一番の財産と言っても過言ではないと思っております。

そういった方々の中には、既に故人となられた方々もいらっしゃいます。広島大学に奉職した故にこぞできた縁でした。今、去るにあたって心からご冥福をお祈りいたします。

もう一つは、心の故郷としての「広島大学」でした。それは本省を頂点とした全国の国立大学の一つとしての広島大学ではなく、広島



附属学校部

早川 久 子 (部局歴) 昭34・5 水産産学部 34・6 附属図書館水産産学部分館 42・4 附属図書館福山分館 58・4 生物生産学部 63・4 附属学校部

「古武士ですね」と氏を評した方がいらつしやいました。まさに古武士の剛直、古武士の忍耐、古武士の清廉潔白さを備えた人物でした。単刀直入な発言は、私たちにとっては耳に痛いことばかりでした。そうして私たちがむしやくしゃした時、「怒ってはいけない。怒るのはいつでも怒れる」という氏の言葉は今でも耳について離れません。

氏はまた、こよなく生徒を愛した人でした。生徒とともに花壇をつくり、畠を耕され、共に秋の収穫を喜ばれたものでした。附属での二年有余の歳月は、人を愛し、風月を友として止まない氏の真骨頂が表れた日々ではなかつたかと思えます。(附属中・高等学校 南村 俊夫 記)



ところで停年を迎えることになりました。一昨年、学部創設二十周年、昨年、大学院博士課程創設十周年の節目の年を迎えて、より一層の教育研究の充実を図るべき時期が到来したにもかかわらず、早くも大学内では学部・大学院の新たな改革構想が浮上してあります。

このように、建物や研究施設の完備などの物的条件や制度的教育研究組織を改善するため鋭意努力することは、もちろん必要なことではあります。大学を充実させ発展させる第一の要件は、大学教官の研究意欲と研究活動にかかっていることを痛感しているこの頃です。

武森重樹先生は、昭和五十年金沢大学理学部から創設間もない本学部へ赴任され、環境科学研究科(修士課程)と生物圏科学研究科(博士課程)の設立、東広島への移転など全く休む暇もなく総合科学部のために尽力されました。博士課程創設十周年を迎えた直後に停年を迎えられるのも、何か運命的な感じもします。

ご専門の代謝生化学の研究では常に世界の学会をリードされてきました。特に、副腎ステロイドホルモン合成に関係する全ての酵素を世界で初めて単離精製し、それらの分子特性を明らかにされた業績は、長く内分泌の科学の分野では記憶されることでしょう。

ご退官は我々にとって非常に寂しいことではあります。先生にとっては、やっとのんびり体を休める時間とれることでもあります。ご健康に今まで以上に配慮されて、今後も幾久しくご指導をお願いします。

(総合科学部物質生命科学コース 小南 忠郎 記)

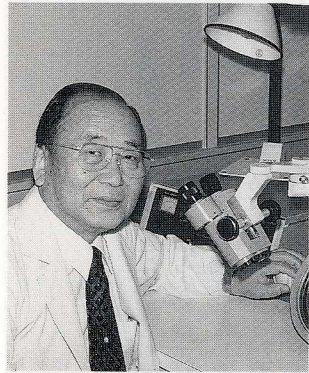
総合科学部情報行動基礎研究講座 重中義信

〈部局歴〉 昭37・8 理学部 教養部 47・4 総合科学部 49・6

このたび広島大学を停年退官するにあたり、一言、御挨拶をさせていただきます。

思い起こせば、昭和三十七年に広島大学理学部に就職してから、ずっと広島大学でお世話になりました。その間、私の好きなミクロの世界の探究に没頭させていただきました。北米、カナダそして豪州への長期出張を初めとして、欧州、アフリカ、南米などへの短期出張もたびたびさせていただきました。私なりにいろいろと活躍できる場も与えていただきました。

これも、ひとえに広島大学の教職員の皆様のご理解、ご協力ならびにご指導によるものと深く感謝いたしております。この場を借りて、心より厚く御礼申し上げます。今後は、これまでの研究成果を、着実にまとめていく方向にもつていきたいと存じますので、引き続き、よろしく御願ひ申し上げます。最後になりましたが、広島大学が真に「開かれた学府」として、ますます発展していきますよう、心より祈念いたしております。



電子顕微鏡操作中のスナップ写真

先生は、原生動物の細胞運動に関する研究にいち早く電子顕微鏡と分子生物学的手法を導入され、世界の先頭に立たれました。また、広くその生理、生態に通暁して、新種を何種か記載されており、いわば博物学的見識をも備えた「生物学者」です。

どんなに忙しくても、来訪者に、変わらぬ優しく暖かい接し方をされ、また弱音を吐かれるのを聞いたことがありません。これはほとんど驚異でありました。どうか先生、これからも思慮深いご忠言と変わらぬ笑顔をもって私たちを励まし続け、また、知る人ぞ知る素晴らしい歌声をもって私たちを魅了してください。

(総合科学部情報行動基礎研究講座 渡辺 一雄 記)

総合科学部フランス語講座 内藤陽哉

〈部局歴〉 昭53・4 総合科学部

総合科学部第一回の卒業生が大学を後にしたその年の四月に赴任してきました。停年後の健康、停年後の生き方、停年後の趣味、はたまた停年離婚まで、一体どの馬鹿が停年になるのか? こともあろうに自分がその年齢だということが理解できない! それこそお年のせいかな?

こうなれば、他人の迷惑顧みず、おむつの交換にもめげず、垂れ流しで生きてやろうか、などと山田風太郎はりに(目下愛読するのは、「朝日新聞」毎週月曜日に連載中の山田風太郎「あと千回の晩飯」である) 粋がつ

総合科学部前にて



大変お世話になりました。心からお礼申し上げます。もうしばらく生き長らえ(故人の遺志により葬儀・告別式は一切無用)「願わくば医学部へ献体」というのが、女房への遺言である。ただし、まだ許可はおろしてない、大学改革の成果を十年後に拜見させていただきます。いと念願しているのですが。

内藤先生は、二十世紀フランス文学の精華とも言うべきブルースト研究に精魂を傾けられ、優れた業績を残されました。また、多才な先生は、いち早くミシェル・フーコーを翻訳されるなど、精神医学の分野にも深い造詣をお持ちでした。近年は「パスポート初級仏和辞典」を刊行され、フランス語教育向上のために大いに貢献されました。

日常生活では、常にダンディな、お洒落な身纏いで、いつまでもたってもお若い、年令を感じさせない方でした。趣味の料理は夫人はだして、みな先生のお宅に招待されるのを心待ちにしていました。

(総合科学部人間文化コース 村瀬 延哉 記)

総合科学部ドイツ語講座 春日野省三

〈部局歴〉 昭40・10 (熊本大学) 教養部 46・4 総合科学部 49・6

しようとしている鼓動を感じています。質的にさらに高度化された広島大学を、外から見守りたいと思っています。

西川亮先生のご専門は、古代ギリシア・ローマの自然哲学です。近著「古代ギリシアの原子論」では「デモクリトス研究」以来のご研究の集大成をなされ、デモクリトスの思想の細部や、エピクロスやルクレティウスなどによる原子論について、残してこられた課題を果たされました。

その一方で評議員の要職を務め、尚志会理事長として全国の支部をまわり、パソコンを使いこなし、夫人はだしの製本・革細工、写真、デッサンを楽しんでおられるのですから、舌を巻いてしまいます。

退官後は広島市立大学に移られます。先生のご健康とますますのご活躍をお祈りいたします。(文学部哲学史講座 水田 英實 記)

教育学部附属幼年教育研究施設 森 榊

〈部局歴〉 昭36・4 教育学部 37・4 (広島県立保育専門学校) 40・4 (立命館大学) 46・4 教育学部附属幼年教育研究施設

「新しい知」の時代だといわれています。新しい酒を入れるべき新しい革袋も、学部の移転完了によって整ったようです。原爆の廃虚跡の学舎、といつても軍隊が使っていた被服倉庫を利用した教室に学んだ世代としては、実に羨ましいかぎりです。

学部二年の頃は、皆実町、出汐町、千田町の三か所に分散した教室を徒歩でぐるぐる回っ



化学生態学ゼミナール後の記念撮影

私が広島大学皆実分校(教養部)化学教室に奉職したのは昭和三十一年。それから歲月は夢のように過ぎさりました。その間なかなか経験できない出来事があり、三十八年勤めた歴史を感じます。

総合科学部自然環境研究講座 原 茂樹

〈部局歴〉 昭31・12 広島大学皆実分校 36・10 広島大学分校 39・4 教養部 49・6 総合科学部

春日野先生は、東京大学文学部ドイツ文学科を卒業された後、熊本大学を経て、昭和四十六年に広島大学教養部に赴任され、それ以来二十五年、教育と研究の両方にわたって地道な努力を続けてこられました。

研究面で特筆すべき業績は、ゲート晩年の作品「ファウストII」の成立過程を二十世紀の心理学の立場から逆照射して解明された一連の論文であります。

ご退官後も、このユニークな研究分野を深化されることを祈念いたします。(総合科学部ドイツ語講座 嶋屋 節子 記)

まず、皆実町の今の附属小学校の場所から千田町の大学本部の所在する地区に昭和三十五年に移転を経験し大変だったこと。次は学園紛争(団交)や授業妨害、バリケード封鎖と辛い時期であったこと。これを契機として大学の改革が急速に進み、その結果、総合科学部創設構想案が生まれ、総合科学部が設置された。

次は、めつたに与えられない体験だが、西条移転の建物の設計図面を書いて私が関係した建物が出来たことは、永遠の思い出に残る一つである。また、桜植樹基金にも参加させてもらい、将来成長した桜を見ることができれば最高の喜びです。

広大を去るとき、昨年は統合移転が完了し、停年の区切りとして記念すべき年であったと思います。無事停年を迎えることができ、諸先生方そして事務官の方々に心より感謝しております。ありがとうございます。

広島大学のますますの発展を祈っております。

文学部哲学史講座 西川 亮

〈部局歴〉 昭25・2 理学部 38・4 (広島電機学園) 43・4 文学部



最後の木造校舎を背景に卒業生と

終戦の年の春、高師附属中学に入学。原爆投下の時、市外にいて命拾いました。私は、焼け落ちた文理大校舎内で遺体処理を印したチョーク跡を目にして悲惨な思いをいたしました。復興後、あの校舎内の理学部に勤務することになりました。

やがて理学部の隣にある文学部に入学。その後教壇に立ったのも東千田の校舎です。大学紛争時、複雑な思いで機動隊と一緒に夜警についたのも東千田でした。いま、解体された文学部の木造校舎跡を見るにつけ、寂寥の念を禁じえません。

振り返りますと、思い出の大部分は東千田キャンパスに繋がるものばかりです。それにひきかえ、西条通いはアツという間でした。しかし、新しい地で広島大学が変容



ていたわけですから、月並みな表現だが、まさに昔日の感を深くします。

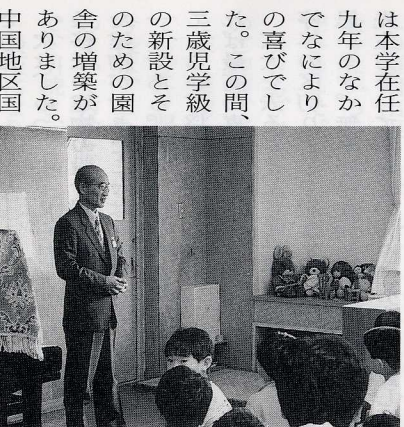


イリノイ大学(米)幼児教育学 スポテック教授と

森先生は、教育学研究科の幼児学専攻の幼児教育学講座に二十五年間にわたって勤務され、本専攻の発展に寄与されました。また、最後の二年間は、附属小学校長として辣腕をふるわれました。

幼児教育学の学界では「あそび」を中心に幼児教育の実践的研究をされ、高く評価されています。この研究は、附属幼稚園園長として幼稚園の教育にも反映されました。先生の毒舌は右に出るものがない域ですが、その正当性についても感服していました。今後のご健勝を祈っています。(教育学研究科幼児保健学講座 清水 凡生 記)

三好信浩先生は、二十二年間にわたって教育学部で日本教育史の研究・教育に尽力されました。この間、学内にあっては評議員・学生部長を務められました。先生の三業の第一は、執筆の由。出版された単著だけでも十三点。そのうち文部省科学研究費出版助成図書が九点。おそらく日本新記録ではないかと思われます。比較教育史研究の分野は、先生によって開拓されました。日本産業



学期末のおわりの集いで

三好信浩先生は、二十二年間にわたって教育学部で日本教育史の研究・教育に尽力されました。この間、学内にあっては評議員・学生部長を務められました。先生の三業の第一は、執筆の由。出版された単著だけでも十三点。そのうち文部省科学研究費出版助成図書が九点。おそらく日本新記録ではないかと思われます。比較教育史研究の分野は、先生によって開拓されました。日本産業

新設の日本語教育学科に着任し、大学院後期課程の設置が終わり、ようやく学科の体制が整ったところで、附属幼稚園長の併任をおおせつかりました。就任早々に体調をくずし、多くの方々にご迷惑をおかけしたのですが、回復後は二年の任期に微力をつくすことができました。これは本学在任九年のなかでなにより喜びでした。この間、三歳児学級の開設とそのため園舎の増築がありました。中国地区国立大学附属幼稚園研究会も主催されました。これらはすべて、関係者の一致協力の賜物です。深謝しています。園児たちはつねにみずみずしい感性と飽くことのない好奇心を持ち、ありのままの自分を表出し、ひたすら目的遂行に努めることを学びました。そこには創造力が漲っていました。

その姿をいつまでも保持できるようにと、園児たちにはいつも「もりもり食べて、どんどん遊び、ぐうぐう眠る」ことを奨めました。そしてこれらのほも園児たちのエネルギーをもらい、元氣百倍となったものです。統合移転が完了し、学部・大学院の教育改革が進むなかで、附属幼稚園の隆盛を願ってやみません。

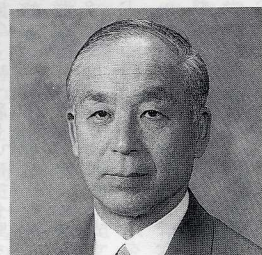


西条移転後最初のフェニックス駅伝開会式

教育成立史三部作、日本産業啓蒙史二部作は高く評価されています。三業の第二は授業、第三は晩酌と伺っております。最近お書きになった学部内広報誌には、第三が「叱咤」であると。願わくば、晩酌に復旧し、ますますご活躍されることをお祈り申し上げます。(教育学部教育哲学・教育史講座 大林 正昭 記)

教育学部体育教育学講座 吉原博之

三十七年間本学で過ごし、今春無事に停年を迎えることになりました。この間、好きな器械運動を中心とした運動学の研究と教育に携わることができ、本当に幸せでした。教室に権威主義は微塵もなく、全く自由な雰囲気、思ったことは何でも話せるよいところでした。愛すべき学生諸君にも恵まれた。体操の技に挑む彼らの真剣な表情、そして技を達成したときの喜びの握手を何人と交わしたことが数え切れません。卒業研究を徹夜で頑張る姿も多く思い出します。統合移転では、体育施設ワーキング・グループで新しい体育施設全般について構想を練り



また、学部全体の施設配置計画にも参画することができました。そして、移転完了の姿を現役で見ることができたのは幸運でした。去るに当たって、いろいろの思いが脳裏を去来します。最後になりましたが、この間、私を育て、支えていただいた多くの先輩や同僚、お世話になった方々に深く感謝申し上げますとともに、新世紀へ向けての広島大学の発展を心からお祈りいたします。

細田先生は、書類をきちんとファイルに整理され、必要な時にはサッと目の前に出されました。十数程の厚みのファイルを見たことあります。パンチで穴を空け、丁寧に保管してありました。過去の書類が必要になり、助けを求めて研究室に飛び込んでも、笑顔で応じていただきました。細田先生の書類整理のコツを伝授していただく機会がなかったのが残念です。(教育学部言語学講座 水町 伊佐男 記)

また、学部全体の施設配置計画にも参画することができました。そして、移転完了の姿を現役で見ることができたのは幸運でした。去るに当たって、いろいろの思いが脳裏を去来します。最後になりましたが、この間、私を育て、支えていただいた多くの先輩や同僚、お世話になった方々に深く感謝申し上げますとともに、新世紀へ向けての広島大学の発展を心からお祈りいたします。

三好信浩先生は、二十二年間にわたって教育学部で日本教育史の研究・教育に尽力されました。この間、学内にあっては評議員・学生部長を務められました。先生の三業の第一は、執筆の由。出版された単著だけでも十三点。そのうち文部省科学研究費出版助成図書が九点。おそらく日本新記録ではないかと思われます。比較教育史研究の分野は、先生によって開拓されました。日本産業

自然のうつろいには、季節に応じて音がある。鳥は鳴き雷は鳴る。虫は鳴き風は鳴る。人間のなりわいには、星霜に応じて言がある。閏歴の事柄に感じて言葉が出る。この書は、馬齢六十三を数える今日までの、折ふしの随感録であって、小人なればこそ自分の手で綴っておきたい自分史なのである。

吉原先生については、まず、あの華麗で潑刺とした体操演技なくして語ることはできません。その演技は、常に若々しいシルエットとともに、私たち体育人のお手本でした。さらに先生は、先進的で高い見識から、学内では統合移転関連の各種委員、評議員、大学将来構想検討委員などを、また学外では、日本体育学会、スポーツ科学の国際学会、あるいは日本体操協会などの要職を歴任されました。四月からは新天地。ご健勝を心からお祈りいたします。(教育学部体育教育学講座 坂手 照憲 記)

広島大学は、統合移転を果たして発展の緒についたところで、世界平和の、また高邁な学問の拠点として、そして学校教育学部は、教育の大きい力として、進展を遂げていってほしいと願っております。今後、私は持病と付き合ひながら、健康に留意して、歌や詩を作ることを通じて過ごしていきたいと思っています。最後になりましたが、音楽教室の教育・研究の充実、発展を心より祈願しております。

昭和三十二年四月に附属中・高等学校に就任して以来、佐賀大学教育学部、学校教育学部、附属東雲小学校と、三十八年の間、理科教育の研究と実践に関わってきました。この間を振り返ると、高度経済成長、急速な科学技術の進展等の煽りを受けて、暖衣飽食の社会、映像文化・情報化社会、異常な受験競争、価値観の多様化など、社会の大きな変化に伴って、児童生徒の実態も大きく様変わりしてきました。かつては家庭、地域、学校のそれぞれが果たして来た教育機能のうち、今や家庭や地域で担うべき内容までが学校教育に委ねられるようになり、学校教育への期待と責務がますます膨大化しております。

佐藤先生は、書類をきちんとファイルに整理され、必要な時にはサッと目の前に出されました。十数程の厚みのファイルを見たことあります。パンチで穴を空け、丁寧に保管してありました。過去の書類が必要になり、助けを求めて研究室に飛び込んでも、笑顔で応じていただきました。細田先生の書類整理のコツを伝授していただく機会がなかったのが残念です。(教育学部言語学講座 水町 伊佐男 記)

佐藤先生は、書類をきちんとファイルに整理され、必要な時にはサッと目の前に出されました。十数程の厚みのファイルを見たことあります。パンチで穴を空け、丁寧に保管してありました。過去の書類が必要になり、助けを求めて研究室に飛び込んでも、笑顔で応じていただきました。細田先生の書類整理のコツを伝授していただく機会がなかったのが残念です。(教育学部言語学講座 水町 伊佐男 記)

昭和三十二年四月に附属中・高等学校に就任して以来、佐賀大学教育学部、学校教育学部、附属東雲小学校と、三十八年の間、理科教育の研究と実践に関わってきました。この間を振り返ると、高度経済成長、急速な科学技術の進展等の煽りを受けて、暖衣飽食の社会、映像文化・情報化社会、異常な受験競争、価値観の多様化など、社会の大きな変化に伴って、児童生徒の実態も大きく様変わりしてきました。かつては家庭、地域、学校のそれぞれが果たして来た教育機能のうち、今や家庭や地域で担うべき内容までが学校教育に委ねられるようになり、学校教育への期待と責務がますます膨大化しております。

また、学部全体の施設配置計画にも参画することができました。そして、移転完了の姿を現役で見ることができたのは幸運でした。去るに当たって、いろいろの思いが脳裏を去来します。最後になりましたが、この間、私を育て、支えていただいた多くの先輩や同僚、お世話になった方々に深く感謝申し上げますとともに、新世紀へ向けての広島大学の発展を心からお祈りいたします。

また、学部全体の施設配置計画にも参画することができました。そして、移転完了の姿を現役で見ることができたのは幸運でした。去るに当たって、いろいろの思いが脳裏を去来します。最後になりましたが、この間、私を育て、支えていただいた多くの先輩や同僚、お世話になった方々に深く感謝申し上げますとともに、新世紀へ向けての広島大学の発展を心からお祈りいたします。

また、学部全体の施設配置計画にも参画することができました。そして、移転完了の姿を現役で見ることができたのは幸運でした。去るに当たって、いろいろの思いが脳裏を去来します。最後になりましたが、この間、私を育て、支えていただいた多くの先輩や同僚、お世話になった方々に深く感謝申し上げますとともに、新世紀へ向けての広島大学の発展を心からお祈りいたします。



教育の西本願寺として日本の教育をリードして来た歴史と伝統をもつ広島大学が、多くの問題に直面している学校教育を正しくリードして、ますます発展させる任を果たすことを期待してやみません。



「女子学生の門限は日没……」  
新入生歓迎会の席で

白神澄二教授は、広島大学教育学部を卒業後、理学研究科に進学され、川村研究室でサンショウウオを用いて集団遺伝学のご研究をされ、その後、広島附属中・高等学校に勤務されました。学校教育学部には昭和六十一年から勤務され、専門である生物学に関する幅広い知見を活かされて、理科教育実践学という新しい研究分野を開拓されました。修論、卒論の指導に当たっては、学校現場の授業改善につながるテーマを与えられていました。実践力のある教師を育成するという観点から、生活科の授業では自ら鉄を持ち、学生にミニトマト、ナス、サツマイモなどの栽培を指導されていました。

先生はこよなく学生を慈しまれ、合宿研修など機会あるたびに、学生と釣り、テニスに打ち興じておられました。学部の統合移転に際しては理科教育研究室の主任として陣頭指揮に立ち、無事完了の重責を果たされました。先生のご健康を祈念いたします。

学校教育学部理科教育講座 柴一実 記

丸尾 譲

〈部局歴〉  
昭39・4 教育学部  
41・4 教育学部附属幼年教育研究施設  
45・4 (広島女子大学)  
63・10 学校教育学部

昭和二十八年、私は教育学部教育学科に入學し、以来四十三年が過ぎた。新入生歓迎会、ある教授が「四年で大学を出ようと思う

な。大学院でしっかり学問をするのだ」と話され、新入生はその迫力に圧倒された。結局、私は米留學も含めて大学院に七年間在籍し、学生として十一年間、教官として十三年六月、広島大学で過ごした。この間、大学は学部学科や附置研の新増設が目覚ましく発展・充実した。私も、昭和四十一年、教育学部に附属幼年教育研究施設が新設されたとき、研究室や附置幼稚園の施設・設備の基本構想や設計に参加した日のことを懐かしく思い出す。昨年、念願かなって統合移転が完了し、研究・教育に総合大学としてのメリットが生かせるハード面の条件が整備された。しかし、大学は今般しい変革の時にある。新しい革囊にいかなる旨酒が盛られるのか。今後の発展に期待している。

丸尾教授は、本学部の生活科学教育講座(修士課程)の設立に合わせて、昭和六十三年十月に広島女子大学より転任されました。

以来七年半にわたって、家庭科のお父さんとして研究教育に尽力されました。新入生歓迎会では、毎年一女子学生の門限は日没とする。それ以後はエスコートをつけること、という訓示をしていましたが、学生思いのお父さんの面目躍如たるものがありました。今後のますますのご活躍をお祈りいたします。(生活科学教育講座 地井 昭夫 記)

学校教育学部音楽教育講座

國安 愛子

〈部局歴〉  
昭56・4 学校教育学部



昨日、学部長室で難波先生の描かれた東雲旧校舎の絵を見ました。あの古い灰色の建物にそこを過ごした者だけにしか分からない深い懐かしさと哀しさを抱きました。雨が降れば水浸しの孤島になった音楽棟も、もう跡形なく壊されたでしょうか。

楽の音の 染み入る壁に 水雨降る  
私が広大に入ってまず感じたことは、研究室の窓が真っ直ぐ、大きく日本全国へ、世界へ開いている! という強い思いでした。その SOLLEN 思考から、これまでただ一年草のような個人の経験にのみ依存してきた音楽教育を、実証的なデータに準拠して科学的に築きたいと、トウロウの斧で奮戦しましたが、それもゲット・オフ。

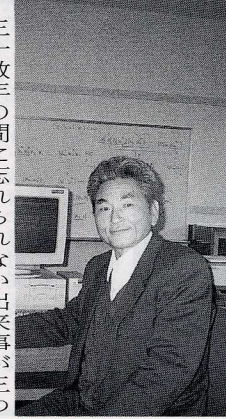
今後の人生は、課題追求型でなく機会調和型でありたい、と思うのですが。皆さんは風雲湧く新キャンパスですますます大きく羽ばたいてくださいますよう!  
燦燦と 道ひらけ行く 風も行く

先生の研究室の五線の入った白板に、楽譜でなく脳の略図が描かれており、意外な感じがしました。「社会文化史を軸に音楽学を展開したかったのに、音楽教育に携わる間にいつしか発達や知覚の方に心が移ってきたのヨ」と伺って納得。  
音の知覚も統合も、奏でるのも歌うのも作曲も、全て脳の働きによることを承知され、脳の生理から教えられたのでした。コーラス、ボランティア、洋画制作等 社会人、趣味人、家庭人としても調和のとれた生活をしてこられました。グルメリも相当なもの。鬼平、シリーズ全24冊から食物に関する部分を抜き出してノートを作られたほどです。  
旺盛な知的かつ美的好奇心に支えられ、これからは輝いておられることでしょう。  
(障害児教育講座 金田 鈴江 記)

学校教育学部数学教育講座

新谷 尚義

〈部局歴〉  
昭38・6 理学部  
53・4 教育学部東雲分校  
53・6 学校教育学部



三十数年の間に忘れられない出来事が三つありました。  
一つ目は不正入試事件です。これは一容疑者の答案を採点してしましてから忘れようがありません。簡潔な解答だ、と感心して満点をつけたのですが、その時におかしいと気づ

かなかったのは全くうかつでした。  
二つ目は大学紛争です。吊るし上げをした学生の封鎖解除後の変わり身の速さには目を見張られました。また、その年の入学者が、卒業するまで目遣いに探ってくる不信に満ちた眼差しは、心の傷の深さを物語っていました。  
三つ目は学部の移転です。物品のチェックや搬出などの作業も初めての経験でしたが、行動様式の変化が一番印象に残りました。電車やバス通勤も疲れますが、時間割りを詰めて組みますので、自室には余り居なくなりました。また、建物が高く高くなりましたので、出会う人は限られてきますし、教室以外で学生に会うことも減多くなりました。

新谷先生は、昭和三十六年に理学博士の学位を取得され、引き続き数値解析の研究に情熱を傾けてこられました。

この情熱は、教育の面にも存分に発揮してこられました。先生の研究室前の廊下に、レポートを持つ学生が順番を待っているという状況が続いています。何かと尋ねると、約五十名の受講生を一人ひとり個別指導されているのです。このようなことができる大学教官がどこにいますか。

学校教育学部生活科学教育講座

竹崎 豊

〈部局歴〉  
昭35・11 理学部  
36・10 (愛媛大学)  
39・7 理学部  
54・4 学校教育学部



昨夏的生活科学教育・合宿研修から

竹崎先生は昭和五十四年に学校教育学部を迎えられ、生活科学教育(技術)において主として電気工学と電子工学の教育と研究に専念してこられました。

今年の年末年始は暇で、久しぶりにテレビを見ました。映る歌番組の出演者の多くが顔も知らない若い人たちがばかりなので、時代の変遷を知ることになりましたが、trf というグループは今までにない素晴らしいダンス表現を見せてくれたし、「TOMORROW」や「碧いうさぎ」という歌は新鮮で、「碧いうさぎ宇宙(そら)を翔(か)けてく、心照らす光放ち」という詩は美しく、このようなダンスや歌が若い人たちに支持されていることを心強く思いました。

学校教育学部では、毎夏、キャンプの練習のために学生の合宿研修をしています。その折の学生たちの(授業の場では見られない)優れた能力と積極性は見事なもので、「社会に出れば彼ら、彼女らは大丈夫」と安心したことにも重なりました。若い方々の伸びやかなご健闘を期待します。

教職員・学生の皆様に感謝し、学部と大学のさらなる発展を祈ってペンをおきます。

理学部在職中は、長年に亘って名大プラズマ研究所の研究員を兼務され、本学部においては、紀要編集委員長などを務められました。昨年の桜井先生に続き、二年連続で教室から退官の先生をお送りすることになりますので、教室は寂しくなりそうです。  
先生の今後のますますのご健康をお祈り申し上げます。

理学部地球環境進化学講座

沖村 雄二

〈部局歴〉  
昭37・1 理学部



テチス海、それは超大陸「パンゲア」に湾入した巨大な古海洋であり、現在では、アルプス-ヒマラヤ山脈をはじめユーラシア大陸の脊梁に変貌を遂げています。沖村雄二先生は、この数奇なテチス海に魅せられて四半世紀、その総延長を踏破された世界でも屈指のテチスワーカーでいらつやいます。

理学部地球環境進化学講座 番匠谷 薫 記

国家科学技術委員会

最初に取り組んだ研究がテチス海域の古生物学。紡錘虫類の研究に疑問を感じて留学の機会を逃してしまつた。そのかわりに、海外学術調査にのめりこんで約二十五年、十三回もヒマラヤ前縁地帯と北極圏の国々に出かけ、十六か国の多くの人々に世話になった。

この春からは、ご多忙のあまり遠のいておられたバトミントンコートへ復帰されますとともに、私どもを含めまして、いっそう広汎な後進のご指導にご尽力くださいますようお願いいたします。

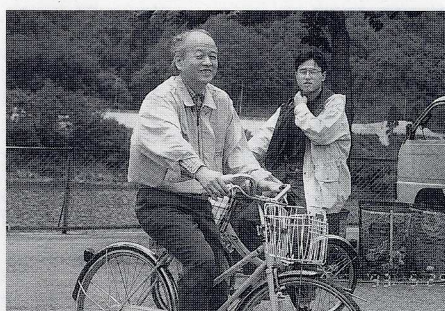
理学部高分子物性講座

中村 英二

〈部局歴〉  
昭35・12 (北海道大学)  
47・10 理学部



たこともあって、四年生の卒業研究に直接かかわる時間が以前より長くなり、お陰でたくさんの方々の貴重な経験をさせてもらいました。



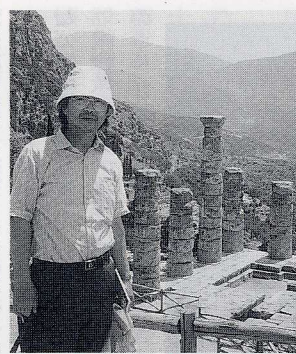
偏差値輪切りによる学生の均質化を指摘する向きもありますが、実際に長時間接触してみると彼らは実に個人的であり、勉学のスタイル、研究への取り組み方もさまざまであることが分かります。超低空飛行でやっとな研究室配属の条件を満たした学生が、実験を巧みにこなして良質のデータを出す一方で、成績良好とされた学生が、テーマを細かく分解して一つ一つ問題の形にして示さないと研究に取りかかれないなど、考えさせられる体験をしています。

ただ、どの場合も、学生諸君の進歩が手に取るように感じられるのが楽しくて、良い思い出をつくることができました。

中村英二先生は、昭和四十七年秋に新設間もない理学部物性学科に教授として着任されました。ご専門は、誘電率測定や光学観察を主な手段とする強誘電体の相転移の研究です。先生は平素のご研究の傍ら、データ集の編集や教科書の執筆も手がけられました。我々の先達として、今後もご助言を戴ければと期待しております。

写真は、平成五年春に研究室で土師（はじ）ダムに遠足に行ったときのスナップです。日頃の謹厳な様子とは違って、くつろいだ感じが伝わってきます。

理学部地球造構学講座 原郁夫 (昭39・4 理学部)



1日中デルフォイのアポローン神殿に遊ぶ(1990)

昭和二十六年に広島大学理学部地学科に入学してから四十五年の間、理学部にお世話になり、良き師、良き同僚・後輩に恵まれて、無事停年を迎えることができましたことを深く感謝申し上げます。

この四十五年間は、地球科学の大変革の時代でありました。ちょうど大学院を出た頃から静かに始まり、大学紛争が終息した頃には激震となって現れましたが、それは、研究・教育に関わる組織の改革なしには対応できないものでありました。しかし、多様な理由により、組織の改革が曲形にも実現したのは、激震が始まったときから二十年ほどの月日が経過してからでありました。科学的研究のライフサイクルと組織の対応の有り様という観点から広く例を取っ

て見れば、これは、「あまりにも日本的」な問題のように考えられます。

多くの研究者が持ち得であろうこうした経験が、現在課題となっている自然科学系の研究・教育組織の改革に、真摯な議論を通じて生かされていくことを希望いたします。それは何よりもまず、内発的であり必然性のある改革を助けることなくして、無意味でありましょう。

原郁夫先生は、一九六〇年代から一九七〇年代前半にかけて行った石英格子フリップクとしゅう曲理論の研究、および一九七〇年代後半から行った日本列島の構造帯、特に三波川変成帯の研究で世界的に著名な研究者として知られています。

このような研究業績が評価され、先生は、一九九五年に日本地質学賞を受賞されています。また、先生は、いくつかの国際学会に連続して招待され、日本のほとんどの主要な国立大学で集中講義を行われました。先生は、日本地質学会では、「オールバック」(実はベーターベン)の真似をされているという噂を伺いました。の原先生としてあまりにも有名で、また演者と徹底的に戦う激しい議論で恐れられていますが、退官された後もお元気な姿を学会で拝見したいと切に望んでおります。

理学部地球造構学講座 竹下徹 (昭30・4 公立学校教員) 山本修 (昭35・10 医学部附属原子放射能基礎医学研究施設) 原爆放射能医学研究所 平元・5 理学部



第10回国際放射線影響学会 (レントゲンX線発見100年記念) 出席のためヴルツブルグ訪問 1995年

理学部博士課程二年目で再就職、理学部附属の原子放射能基礎医学研究施設が原爆放射能医学研究所になり、三十年を経て大古狸になった頃、理学部に転任することになりました。その間、旧県庁の木造の建物から旧兵器工廠の建物に移り、さらに理学部の人たちの妬ましがね目をよそに新築の建物に移ることができました。種々の設備の整備も驚くほど進みました。しかしその建物も、今や老朽の域にあります。私自身も知らぬ間に時を経て、停年退職の身となっていることに愕然とせざるをえません。

理学部で待っていたのは、東千田キャンパスから東広島キャンパスへの移転準備と同時に、アイソトープ中央実験施設(現センター)の計画と建造、それと遺伝子科学独立専攻の創設でありました。多くの人たちの支援の下に、両者ともやっとな軌道に乗り出した所で、去り難い思いに駆られている次第ですが、これもまた人生の一齣というところでしよう。現在建築中の本部の建物の位置が少々気に食いませんが、数十年後には電キヤンパスの幾つかの学部及び研究所も新キャンパスに移転した、広大(こうだい)にしかつかつ偉大なる大「広島大学」の将来像を夢に描きながら、ここに後輩の人たちに全てを託したく存じます。

東広島運動公園にて



広島大学統合物転記念植樹 1995年11月2日

急速に進展する医学・医療のなかにあつて、私たち医療従事者は、常に最善のものを社会に提供しなければなりません。患者中心の全人的医療体制の確立には、その根源をなす医学教育の絶えざる改善と充実が必要です。教養的教育の全学的担当に始まる広島大学の教育改革を基盤にして、医

医学部眼科学講座 調枝寛治 (昭38・4 医学部附属病院) 昭39・2 医学部 (広島県厚生連府中総合病院) 昭40・7 医学部 (広島県厚生連尾道総合病院) 昭45・4 医学部 (広島県厚生連尾道総合病院) 昭48・4 医学部

最近先生は、もう五年欲しい、とよく言われます。昭和四十年代初め、日本の分子生物学研究のメッカの原研で、先生が後の分子放射線生物学に大きく発展する研究を拓かれていた姿が思い出されます。理学部では、遺伝子科学専攻の設立とRI実験施設のセンター化等に指導的役割を果たして来られました。この業務では先生の研究は思いどおりに展開できなかったかも知れませんが、その犠牲と献身的努力をつぶさに知るにつけ、我々は与えられた研究教育環境を仇や疎かにすることはできません。先生、本当にいろいろと有難うございました。(理学部細胞構築学講座 吉田和夫 記)

学部においても卒前から卒後につながる教育・研究組織が着実に発展することを期待しています。

私も関連病院の一員として、卒後研修のお手伝いできればと思っておりますので、今後ともよろしく願っています。

「自分のことは自分でやる」ように努めてまいりましたが、顧みて他人に迷惑をかけた方が多かったように思います。さしたる実力も業績もないのに、大学人としての職責をなんとか果たすことができたのは、多くの方々にも励まされ、ご支援いただいたからであり、心より感謝申し上げます。

調枝寛治教授は、広島大学医学部を昭和三十三年に卒業され、一年間のインターンの後、広島大学医学部眼科学教室に入局されました。医学部大学院の一期生として入学され、放射線白内障の研究で学位を取得されました。その後一貫して、放射線眼障害と網膜疾患の臨床と研究を続けてこられました。

昭和五十年四月からは、眼科学教室の三代目の教授に就任されて以来、この間、百五十名余の眼科医を育成され、学位取得者は四十名近くになります。ご自身は平成四年から附属病院院長、平成六年から医学部長として広島大学医学部の発展にたいへんご貢献されました。平成八年からは尾道総合病院の院長に就任と聞いております。

十人中十人が、調枝先生の穏やかなお人柄を褒められます。決して人と争わないことをモットーとされたこと、四十一年近くになる先生の網膜剥離をはじめとする眼科治療のおかげで、失明を免れた人は数えきれません。

今後、患者さんのために眼科医療を続けられるとともに、先生のご健勝をお祈りいたします。(医学部眼科学講座 三嶋弘 記)

医学部医療薬剤学講座 矢田登 (昭35・4 大阪大学) 昭54・3 医学部



一九七九年(昭五十四)三月、医学部総合薬学講座を創設し、以来、早いもので十七年が経過し、他人事と考えていた停年を迎え感慨深いものがあります。

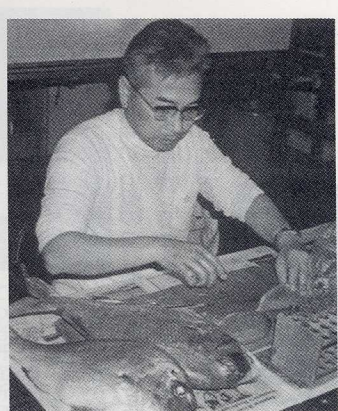
赴任当初、マラソンを走るつもりが、振り返ってみると百回をダッシュしてきたような感じがし、「光陰矢のごとし」を実感しているところです。総合薬学講座は、日本全国唯一の、医学部に所属する薬学であり、その特徴を生かした共同研究のしやすい環境であったことは、私にとって幸せでした。

広島大学が東広島市への移転を完了し、日本有数のキャンパスを誇る大学となったことはご同慶の至りですが、次のプロジェクトとして広島市に残留する霞キャンパスの再開を強力に推進していただきたいと念願しております。

現在論議されております教養的教育の改革の推進とともに、二十一世紀へ向けての広島大学の発展を祈念いたします。

医学部薬効解析科学講座 穂下剛彦 (昭31・4 医学部)

これは「平家物語」のなかの、壇ノ浦合戦に敗れて入水する直前の平知盛の言葉ですが、今の私は、事を研究面だけに絞ったときに限り、これに近い感慨を抱いております。



研究材料のタイの胆汁の採取(1980年)

私は一九五一年、即ち、二十世紀の後半の最初の年に理学部に入学して以来、ずっと広大に在籍しました。今だから白状しますが、私は学ぶことも、教えることも好きではあり



ません。むしろ大嫌いです。そんな私が四十五年もの長きにわたって大学に止まることになったのは、世間様で「研究」と呼んでくださる行為が、私の「趣味」...

先生は、昭和三十一年から四十年間にわたり、本学において教育・研究に専念して来られました。とくに、総合薬学科の創設期から、その基盤充実・発展と後進の指導育成に尽力されました。...

歯学部口腔外科学第一講座 高田和彰 (大阪大学) 昭35・8 歯学部 49・8

卒業パーティの1コマ 佐々木先生と美女に囲まれて



工学部応用化学講座 石川満夫 (京都大学) 昭37・7 工学部 61・11

昭和六十一年十一月から本年三月で九年五か月間、この大学にお世話になりました。

あれば十分ひと仕事ができると言われていたが、この大学にお世話になることが決まった時に、十年もあればふた仕事ぐらひはできるだろうと張切っていました。

昭和四十九年八月十六日付けで広島大学に赴任して以来、二十二年間お世話になりました。着任後、診療体制並びに研究体制の整備充実をおよび国際化の推進を基本方針に医局運営に当たりました。



ハウザーメン教授(ドイツ顎・顔面外科学会理事長) 御夫妻を自宅にお招きして

先生は着任早々、口腔(こうくう)腫瘍外来を設置し、口腔癌の治療を推進され、同時に外傷、唇裂(しんれつ)・口蓋裂(こうがいれつ)...

その間、種々役職も務めさせていただき、皆様のご協力を得て無事その職責を果たすことができました。

歯学部口腔外科学第一講座 倉本戴寿 (医学部薬効解析科学講座) 倉本 戴寿 (記)

大学院の重点化が進み、大学院大学としてさらに飛躍されんことを祈念申し上げます。

石川先生は、一九八六年に京都大学より本学に赴任されて以来、応用化学講座の教授として教育・研究に情熱を注いでこられました。

工学部応用化学講座 佐伯幸民 (民間) 昭30・5 工学部 36・7

三十四年八月、人生のほとんどを過ごさせていただき、その間、工学部第三類の皆様はもとより、学部を超えた多くの方々にお世話になりました。

しく知る必要があるのですが、困ったことにごく一部の組織を除き建物改修の履歴がほとんど保存されておらず、また、建物の維持保全もきわめて不十分なことが思い知らされました。



退官記念テニス会での研究室一同 (1995年11月)

小原誠先生は、昭和六十一年四月に広島大学に赴任されて以来、学生に大変好かれる存在で、また先生も学生想いで、熱心に建築教育を進められ、そのなから建築設計を得意とする学生が育っていききました。

工学部建築計画学講座 小原誠 (日本電信電話公社) 昭30・4 (民間) 59・4 工学部 61・4



クリスマス寒波で雪に覆われた工学部高層棟

「独創的研究」一着想を重視した研究を重んずる気風を今一度醸成して欲しいと思います。

佐伯幸民先生は昭和三十六年に工学部にご着任になり、以来一貫して、界面活性剤の合成とその物性測定に関するご研究・教育に打ち込んでこられました。

工学部応用化学講座 井藤 壯太郎 (記) 昭39・4 原爆放射能医学研究所

私は、昭和三十八年に広大工学部医学科を卒業し、インターン修了後当時の原医研血液

内科に入局し、一年後、故朝長正允教授が長崎大学に帰任されたのを契機に原医研の遺伝学・優生学部門(岡本直正教授)に移り、爾来三十年、現在の環境変異分野でお世話になりました。

佐藤先生は、最近数年間、チェルノブイリ原子炉事故などの世界各地の放射線による災害の後障害者についての国際共同研究を精力的に進められ、「世界のヒロシマ」における情報発信基地としての当研究所の基礎づくりに多大な貢献をされました。

一九九五年、被爆50周年のNHKドラマ番組撮影のため来所された中原ひとみさんを囲んで



この業績は、先生の長年にわたる



ご研鑽の成果のみならず、friendlyかつ誠実なお人柄によるものと拝察されます。先生は退職後、広島文化女子短期大学で教鞭をとられる一方、NGO財団の支援を得て国際医療交流を継続される予定とお聞きしております。先生のますますのご健康とご多幸をお祈りしております。

(環境変異研究分野 加藤 修 記)

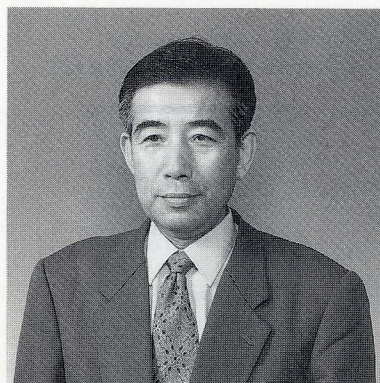
附属高等学校

南村 俊夫

〈部局歴〉  
昭44・4 教育学部附属中学校  
46・4 教育学部附属高等学校  
53・6 附属高等学校  
平4・4 附属中学校  
6・4 附属高等学校

昭和四十四年四月、三十三歳で附属中・高等学校に奉職して以来、二十六年の長きにわたった附属での生活もこれで終わりだ、と思うと感慨無量の気がいたします。

いろいろなことがありました。附属の教官となった当時は無我夢中で本を読んだものでした。英語科の図書を読み続け、どんな本にもどなたかの書き込みがしてあるのを見て、先輩諸先生方の偉大さをかみしめたものでした。



シドニー大学のディプロマ・コースに一年留学させていただいたのは三十代の終わりでした。四十代の半ばくらいまでは

毎年論文を書くのに追われていたような気がいたします。五十代前半から校務分掌で忙しくなり始め、五十代の最後の四年間は副校長として学校運営に携わらせていただきました。

その間多くの生徒とのつきあいができました。およそ五千人以上の生徒を見てきたことになりま。また多くの方々の邂逅もありました。故人になられた方もあれば、今なお各地の教育界で指導的な役割を果たされている方もあり、広島大学を守り立てていられる方もいらしゃいます。

この二十六年は、振り返ってみると、そのような方々や生徒諸君に支えられたものだということがひしひしと感じられるのです。ありがとうございます。心からお礼申し上げます。

附属は今岐路にたつていると言っても過言ではないかもしれません。そういう中でこそ附属中・高等学校が真価を発揮されることを祈念してやみません。

附属の明日を信じている者の一人としてお別れの言葉を述べてさせていただきます。

(附属中・高等学校 小山 清 記)

南村俊夫先生は、昭和四十四年、本校に着任され、爾来二十余年、生徒部長・総務部長などを歴任されて、四年前に副校長の要職に就かれました。洞察力と決断力に優れ、いくつもの改革を手がけられました。なかでも、学校創立九十周年に際し、情報教育棟の竣工を成し遂げられました。若いころ広島大学教職員組合の委員長をなさったこと、つい先年教育者表彰をお受けになったことも思い出されます。今後の人生の安寧を祈ります。

(附属中・高等学校 小山 清 記)



いる研究がなされてきましたが、子どもの自己実現はもとより、私自身が自己実現しなければ、と強く感じたことを思い出します。

十六年間という長い間、研究熱心な先生方、パワー溢れる子どもたち、暖かく見守ってくださった保護者の皆様等々、多くの方々に支えられて今日の私のあることに深く感謝いたします。これまで多くの方々の出会いから学んだことの数々を、これからの私の人生の糧として、心豊かに生きてゆきたいと思っています。

二十一世紀を背負って生きる子どもたちの健康を願うとともに、皆様のご多幸と広島大学のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。誠にありがとうございます。

昭和五十五年に小学校の養護教諭としてご着任以来、十六年間にわたって児童の健康と安全教育にお力をお注ぎくださいました。

その間、日々の児童の安全に万全を期されるとともに、特別活動の安全教育の研究に携われ、幼稚園・小学校・中学校の性教育の一貫性を図られたり、医学部保健学科の教育実習確立と推進に指導的役割を果たしてくださいました。「仕事に対しては厳しく、人に対しては優しく」を先生の日頃のご活躍の中で教えられました。本当にありがとうございます。

(附属三原小学校 浦島 啓 記)



卒園式の朝、園児といっしょに

附属三原幼稚園

木原 純子

〈部局歴〉  
昭40・4 (公立学校教員)  
53・4 教育学部附属三原幼稚園  
53・6 附属三原幼稚園

寒い朝、K君が「先生、ぼくの口から白い煙が出るよ」と自慢そうに私のところへ駆け来て来ます。また、池の水を見たM君が、「先生、ぼくの鼻水どうして凍らないの」と不思議そうに私の顔を見上げます。

こんな明るくのびのびとした園児たちに囲まれ、また、これまでのいろんな面を私を支えてくださった先生方のお陰で、七年が過ぎました。三十年間公立小学校教員として勤めてきて、いきなり幼稚園へ転じ、いろんなことに戸惑い、悩むこともありましたが、幼稚園教育に携わってみて、幼児教育の重要性に学ぶことの多い日々でもありました。

私を今日まで励ましてくださった先生方、保護者の皆様に感謝するとともに、広島大学附属三原学園のますますのご発展を心から祈ります。

附属東雲中学校

柴原 健児

〈部局歴〉  
昭35・4 (公立学校教員)  
45・4 教育学部附属東雲中学校  
53・6 附属東雲中学校



子どもたちの未来に幸いあれ!

一九七〇年から東雲中学校に勤務して、世話になり、外ともに激動の時期、周辺の運田(はずだ)やイチジク畑も消え、学校教育学部もこの地を去りました。

子どもをめぐる環境も変化し、歪みや課題を抱えての二十六年間でしたが、拘束が少ない本校で指導と研究の自由な場を保障されて過ごせたことは、とても幸せでした。

「生徒と授業を大切に」と心して努めたつもりですが、その子にとって何が大切かを見失っていたことも多く、恥ずかしいばかりです。実習生との関わりを通して中学生を見つめ直す機会を得たことも貴重でした。

台風の折、帰宅する生徒を追い、共々に吹ささぶ駅でまんじりともしなかつたこと、生徒指導で夜遅くまでかけ回ったことなど、昨日のように思い出されます。授業では教え

たいことのみが先に立ち、終わったら生徒は疲れたため息をつくということも多々ありました。

卒業生のたくましい成長を見るたびに、「いろいろあったが、これで良かったのだ」と思う今日この頃です。

先生は昭和四十五年本校に赴任され、二十六年間にわたって本校の教育に情熱を傾けてこられました。

私の中学生時代の恩師でもある先生は、常に生徒の立場にたつた指導をされておりました。私は中学校卒業後も、先生には何回も人生相談にのっていただきました。先生のように、生徒に心から慕われる教師を目指して頑張っていくつもりです。

今後のますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。(附属東雲中学校 家本 一郎 記)

附属三原小学校

岡田 芳子

〈部局歴〉  
昭55・4 附属三原小学校

昭和五十五年本校に赴任され、勤務して以来これまで十六年、人生の一つの節目としての停年を迎えることができ、感慨深く思っています。

「停年」と言う言葉は、私には無縁のように思っておりましたが、間違いなく年は重ねて来たのだと、今実感しています。

振り返ってみますに、昭和五十五年の頃、本校は「自己実現をめざす子どもの育成」をテーマに研究が進められた頃でした。自己実現とは、「人間一人ひとりの可能性の実現をめざすもの」という考えをもとに

当初から「精神衛生とカウンセリング」が私自身の課題であり、それは今も変わらない。それなりに、精いっぱい学びつつ取り組みはしたが、お役に立てたや否や、疑問である。とはいえ、養護教諭実習生からの評価で、自己満足することにしよう。

たつた一人のこの椅子は、教職員の皆様方、とりわけて行政職の皆様方に何かとお手をかけた。伏してお許しを乞うものである。今は昔、福山分校での合同保健室を懐かしく思い出しながら、昨年末の簡易ドックのデータによる精査入院を余儀なくされての床上でこれを書いている。

医師、ナース、管理栄養士、薬剤師、理学療法士のチームプロジェクトによるまさにこの教育入院を天からの最高のバカンスと思いついて、自己管理以外にない厳しく指導を受けつつ、食餌、運動、講義にと、いち早い現場復帰を念しながら一所懸命に取り組む日々となった。

長い間の皆様のお支えとお導きに感謝し、厚く御礼を申し上げます。まことにありがとうございます。

「やさしくて、かわいい女性」と書いておきます。(長谷川先生にそっぴり指示されたので)養護教諭として全力を尽くされた今、少し体調を崩して共済病院に入院していらつしやいましたが、保健室のメッシーボードには、努力の上に幸運の花が咲きますようにと、生徒へ励ましのこぼれが残されています。

保健学科の学生には、「私の最後のすばらしい経験をさせていただきました」と心から感謝されています。(附属福山中・高等学校 落 健一 記)



経理部経理課

篠原和幸

昭和37・8 原爆放射能医学研究所

43・5 経理部経理課

48・4 (兵庫県高等学校)

53・8 経理部経理課

60・4 工学部

平元 5 教育学部

4 歯学部

6・4 経理部経理課

昭和三十七年に原医研に奉職以来、三十数年がアツという間に過ぎました。良きにつけ悪しきにつけ、在職中の思い出が走馬燈のごとく駆けめぐります。

人生の幸福は、思ひ出の多少で定まるといいます。大学は私に数多くの思ひ出を与えてくれました。

厳寒の真夜中十二時に、工学部大型強度試験機の移設のため新キャンパスまで時速四キロで伴走したこと。入試当日の早朝、積雪をみてあわてて雪かきをしたこと等々、苦労とは、熱中の中にあるものと思つたものです。

唯一の心残り、広島大学へ何か大きな忘れ物をしたまま退職するという事です。それ



れが何か私にもわかりません。始末の悪さは私の不徳の致すところと恥じ入っております。皆様方の私に対する数々のご好意に感謝するとともに、広島大学が世界に羽ばたく大学にならんことを祈念してやみません。ありがとうございます。

篠原さんとは、原医研での出会いから三十四年がたつたわけですが、仲良く、伸び伸び、楽しく過ごしたような気がします。

当然仕事を離れば、年が近いこともあり、映画を見たり、喫茶店の「ハシゴ」や、時には百円コースと称したキンビヤホールへ飲みに行つたことなど、青春時代を共に走り抜けたことを思い出します。

大胆かつ柔軟な発想と行動にドキドキ、ヒヤヒヤ感じたのは私一人だったのでしょうか。天性の明るさと、誰からも好かれる人柄は得な性分だと、つくづく感心してきました。

文学青年も年を取つたら「タダの人」にならないよう、老化防止も兼ねて時々一緒に、青春の良き思い出を肴に一杯やりたいと思つてます。

第二ラウンドもお元気で。

(施設部 高田 三朗 記)

学生部

横山貢

昭和37・11 (大阪外国語大学)

58・12 (津山工業高等学校)

60・12 (兵庫教育大学)

平元 4 (大阪教育大学)

4 4 (琉球大学)

6 4 学生部

いつも周りに配慮され、職場の和を大切に、私たちが後輩を親切にかつ厳しく指導してくださいました。最近では、総合科学部の移転を陣頭指揮で完了され、続いて教養教育・学部教育・大学院教育の改革に取り組まれていました。改革途中で広島大学を去られますが、仕事に対する情熱、教訓は多くの後輩たちの心の中に生き続けると思っています。

ご健康に十分留意され、第二の人生を奥様と二人三脚でエンジョイしていただきたいと思つています。(総合科学部 平井 明 記)

教育学部事務部

保手濱清利

昭和32・1 医学部附属病院

39・4 医学部附属病院管理課

42・6 歯学部附属病院

45・10 教育学部東雲分校

52・4 文学部

53・8 工学部

58・10 医学部附属病院管理課

61・10 医学部附属病院管理課

62・4 医学部附属病院管理課

平元 4 経理部経理課

3 4 原爆放射能医学研究所

5 4 教育学部

昭和十一年生まれの私にとって五回目の干支、還暦そして定年という人生の節目の年を迎えて、なんとも複雑な心境です。「時は人を待たず」といいますが、歳月の流れの早さを実感しています。

在職三十九年間の思ひ出はそれぞれの部屋であります。最初に勤めた医学部附属病院で、旧陸軍兵器廠の赤レンガの建物で勤務したこと、広島大学統合移転の第一陣として工学部の移転に携わつたこと、そして、最後の勤務場所になった教育学部のことなどが特に



公務員最後の忘年会でカラオケ? あいさつ?

冒頭から不謹慎な話で恐縮ですが、私は戦争の傷跡を至る所に見る昭和二十九年に公務員になつたわけですが、生活の糧を得るためであり、信念や希望を持つて、とはお世辞にも言えない、ただただ生きるための手段として公務員になつた次第です。

このように何の信念もなく、大学に身を置き年を重ねるにしたがつて、大学こそ私にふさわしい職場と自覚したのかどうか定かではありませんが、組織の歯車の一つとして、何回となく挫折の危機に会いながらも走り続け、気がついてみると定年を迎えていた、というのが実感です。

その間、行く先々でよき知己を得たことは、私の人生にとって幸運であつたと思つています。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

今後は、新しく始まる人生を私自身と家族のために、失われた感性の再生を期しながら、精いっぱい走り続けたいものです。

四十二年もの長い間、公僕としての勤めを全うされ、ご苦労さまでした。

仕事に厳しく、多くの人に信望された人となりは、まさに全国区で知らない人はいない。特



教育学部親睦会旅行にて

この間、多くの方々に支えられて、このたび無事に健康で定年を迎えることができました。厚くお礼申し上げます。

私にとって、これまでの人生の中で一番の出来事は禁酒したことでした。若い時分の不摂生がもとで病気になる、以後、約三十年間にわたり禁酒をしてきました。「人が一生に飲む酒の量は定まっている」といわれる。この説の正否は別にして、酒を断つてからはよく人から、「一生分を飲み尽くした」と言われたし、私もそうかなと思つていました。しかし、最近では会合等でビールを少々飲むようになった。この程度の酒なら身体にもあまり影響はなく、また雰囲気にも溶け込めるので、これまでは苦痛であつた酒の席などにも気楽に出られるようになりました。「神様が、少しでも飲む酒を残してください」の「のだ」と、都合の良い解釈をしています。

酒に関しては、太く短くがありますが、これからの人生は、「飲む量が少し残っている」酒を嗜みながら、健康に留意し、前向き

に、定年前の二年間、広島大学における働きはまさに超人的で、どんな困難な業務に対しても持ち味の寛容と忍耐の精神で、誠実かつ冷静に指導力を発揮された。

仕事が終わるとコップ酒。そこには自然と人が集まり、一日の疲れを癒す楽しい話が出てくる。おもしろい話は多々あれど、とっておきは故郷東城での高校時代の話。「たけやがやけた」で饅頭をせしめた話は忘れられない。

退職後は、海外に出かけ大好きな釣りを楽しむ自由。いつまでも元気で楽しまれんことを祈ります。(教務課 道管 浩 記)

総合科学部事務部

武口尚義

昭和32・12 庶務課

39・4 庶務部人事課

46・4 (人事院)

49・4 庶務部人事課

54・4 庶務部庶務課

55・10 医学部

59・4 総合科学部

60・4 庶務部人事課

平元 4 学校教育学部

4 10 総合科学部

三十七年余りの長い大学生活でしたが、その間大学紛争をはじめ、良きにつけ悪しきにつけ、多くの事件なり事業が思い出されます。とりわけ最近数年間を回顧してみても、少しでも私の関与した事柄を列挙しますと、学校教育学部時代には大学院完成記念ほか記念事業二件、悪しき事件四件。総合科学部時代には統合移転と移転完了記念ほか記念事業六件、悪しき事件二件。また、教育面では自己点検・

長い間のお勤め、本当にご苦労さまでした。特に、統合移転のトップバッターとしての工学部の移転では、何事もゼロからのスタートで、マニュアル作成、準備、契約、実施と大変な作業を、日常の業務と併行して行うという、まさにスーパーマン的存在でした。連日深夜まで仕事を続けられる先輩には、頭の下がる思いでいっぱいでした。この時の「移転マニュアル」が後続の移転部局全てに引用されたことを思うと、その功績は多大なものであります。

先輩は、典型的なスポーツマンで、サバサバした人づきあいと同時に、私も後輩には、時には厳しく、時には優しく指導に当たられました。同じ職場でのほんの数年間でしたが、心配り、手際の良さ、多行事をこなす気力等々は、いつも圧倒されておりました。

健康第一で、いつまでも若々しい、充実した人生を過ごされんことをお祈りします。(教育学部 但見 嘉信 記)

理学部事務部

中島崇

昭和30・9 施設課

40・4 経理部主計課

41・8 経理部経理課

49・4 附属図書館

53・4 教育学部附属学校

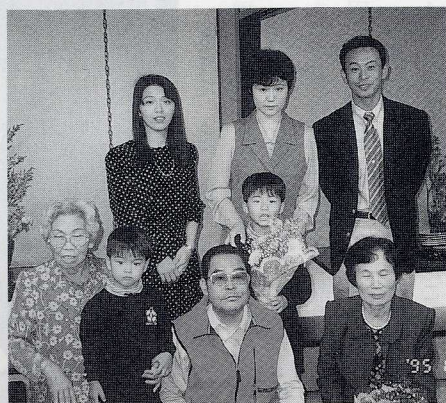
53・6 附属学部

55・5 医学部附属病院管理課

58・10 施設部企画課

平元 4 医学部

武口事務局長は、人事院の三年間を含む多くの要職を歴任されて、多大の功績を残され、大学行政に尽くされました。



私のファミリー(還暦：某料亭にて)

評価、一般教育と専門教育の区分廃止に伴う新教育課程への移行とその後の教養教育、学部教育の見直し、大学院の再編拡充等と盛りだくさんの事柄があつたことに、今さらながら驚いています。

そしてこれらの見直しは、今後とも繰り返して行われなければならないことは当然ですが、当面は総合科学部が台風目の目であり全学の注目的である平成九年度に向けての教養教育の具体的実施段階を迎えて、これまで以上に事務サイドは積極的に参画し、総合科学部はもちろん全学の協力が得られるよりよい新教育課程の誕生を期待しています。

紙面の都合で私の拙文も終わりとし、改めて皆様のご厚情に感謝申し上げますとともに、ご多幸と本学のますますの発展を祈念しお礼の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。





若かりし頃の施設部事務室にて

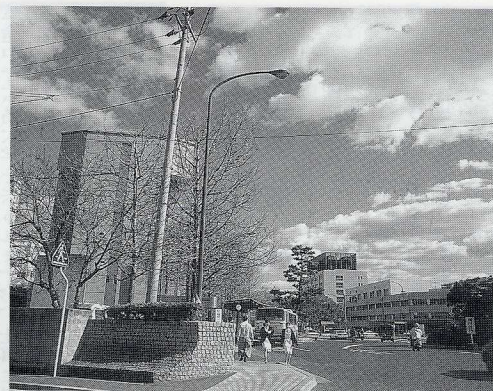
昨年、阪神大震災、オウム事件、バブル経済崩壊による経済不況など暗いニュースの続いた中で、広島大学にとっては長年の懸案であった統合移転を完了し、記念すべき年になり大変おめでとございました。

この記念すべき年の統合移転記念式典を待たず九月末をもって退官したことは、少なからず心残りではありましたが、自身の人生の節目となる年にもさせていただきました。思えば、新制大学発足後間もない昭和三十年に広島大学にお世話になりましたが、当時の東千田地区には、現在放送大学（元教育学部）のある校舎がただポツンと整備されている状態で、爾後四十年間幾多の変遷を経て、タコ足大学の解消整備、県立病院の移管、大学紛争を経ての統合移転等々、今や全国有数の大学へと発展してきましたが、このなかで事務の裏方として、ほんの僅かながら関わったことを光栄に思う今日この頃です。

今後は、平成元年から四年間携わった震地区再開発が一日も早く実現することを願うとともに、四十年間お世話になった方々への感謝のお礼と、広島大学の限らない発展を陰ながら祈念して、退職者のことばとさせていただきます。

昭和三十年に広島大学に奉職され、四十有年の長きにわたるお勤めご苦労様でした。その間、主として会計畑を歩まれ、大学行政にたいへんご尽力されました。いつも職場の融和を大切にされ、真摯な態度で部下の育成と指導に当たられました。温厚なお人柄から優しさを併せ持つ苦勞人でもあれ、学内の信頼も厚く、多くの方から敬愛されてきました。また、趣味も広く、地域でも多くの友人をお持ちのようにお聞きしております。

今後もご健康に留意され、悠々自適の人生をお送りされることをお祈りします。  
(理学部事務室 継紀 記)



霞キャンパス入口

医学部  
林 茂樹  
（部局歴）  
昭31・7 岡山大学  
58・4 (米子工業高等専門学校)  
60・4 (津山工業高等専門学校)  
62・10 (鳥取大学)  
平元・10 (岐阜大学)  
3・4 (福井医科大学)  
5・4 (山形大学)  
6・4 医学部

三十九年間、国立大学等の発展にご尽力され、お元気で定年を迎えられましたことに対し、心からお喜びを申し上げます。

本学での勤務は二年間でしたが、その間において、震再開発をはじめ特定機能病院の承認、阪神・淡路大震災に伴う医療支援、全国国立大学病院長会議の開催、医学部創立五十周年記念行事の実施、大学院医学系研究科保健学専攻の設置など幾多の重要事項について指揮及びその衝に当たられ、まことに疲れ様でございました。我々部下に対する指揮・指導に当たっても、その風貌・風格どおり泰然自若とし、人を分け隔てることなく接しられ、判断を仰げば迅速・的確な結論を示され、気持ちよく、楽しく仕事をさせていただいた、という感慨でいっぱいです。

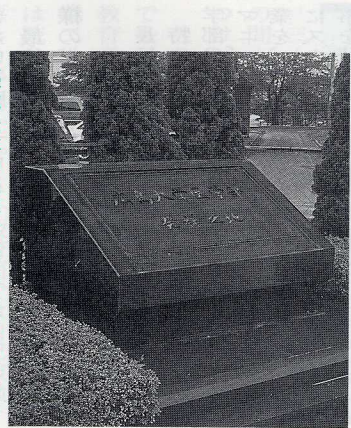
家庭にあつては愛妻家であり、趣味のドライブを奥様の趣味である写真撮影に役立てておられることとあり、わが身を思えばこの点において、もって範とすべきであると思う次第であります。

退職後はご健康に留意され、奥様、ご子息様とますます仲睦まじくお過ごしくださるよう祈念いたします。  
(医学部総務課 平田 幸雄 記)

医学部  
山下 秀雄  
（部局歴）  
昭40・9 教育学部東雲分校  
44・10 経理部経理課  
50・4 文学部  
62・4 医学部附属病院管理課  
平元・5 医学部

昭和四十年に奉職されて以来、三十年余りの長い間、自動車運転手として公用車の運転業務一筋に勤務され、また、お元気で定年を迎えられましたことに対し、心からお慶びを申し上げます。

淡くてスマートな風貌と誠実な人柄は、まさに道先案内人であり、上司からも大変な信頼がありました。退職後は、健康に十分留意されて、趣味のゴルフ、釣りなど楽しい日々をお過ごしください。よう願っております。  
(医学部 神尾 博 記)



医学部発祥の地碑（広警察署構内に建立）

一口ニュース

研究プロジェクトが始動—総合科学部  
総合科学部で「総合科学研究プロジェクト」が動き始めた。

この事業は、総合科学部の理念に則り、文系と理系にまたがる共同研究をはじめさまざまな形の総合的、学際的研究を育成、推進することを目的としたもので、総合科学部に所属する複数教官の協力による総合的、学際的研究プロジェクトを対象としている。

事業費は、学部長裁量経費として予算配分要項に定める職員旅費、校費が充てられることになっており、一件当たりの申請額は、百万円から七百万程度（単年度予算）になっており、同一課題による継続申請も認められている。

理学部道端教授ら学術賞を受賞

理学部の道端齊教授は、ホヤの金属元素バナジウム濃縮の仕組みを突き止めたことにより、第12回井上学術賞を受賞した。授賞式は、二月二日、東京の国際文化会館で行われ、井上科学振興財団から賞金二百万円が手渡された。また、同じく理学部の日置慎治助手も、十二月七日、ゴードン・ベル賞を受賞した。ゴードン・ベル賞は、計算技術に関する世界で最も権威のある賞で、「性能」についてその年に最も顕著な成果を發揮したスーパー・コンピュータのアプリケーションに対して贈られるもので、賞状と副賞五〇〇米ドルを手にした。

医学部附属病院  
下西 克子

（部局歴）  
昭43・4 医学部附属病院  
51・5 医学部附属病院看護部



昭和四十三年から医学部附属病院にお世話になりました。月日のたつのは早いもので、東病棟四階に勤務してはや二十八年の歳月が流れ、数々の思い出が走馬灯のごとく、脳裏を駆けめぐります。

勤務当初は病院内の場所やいろいろな専門用語がわからず戸惑う私に優しくご指導くださいました多くの方々から感謝しております。いろいろな患者さんに接し、自分が健康で働けることを感謝しながら一生懸命勤めてまいりました。今振り返ってみると、多くの患者さんや職員の方との出会いや交流とおして私自身が成長させていただいたように思います。これも看護婦長をはじめ多くの方々のおかげと感謝しております。退職しましても皆様方のご恩は一生忘れずに、健康に留意しながら第二の人生を有意義に過ごしてまいります。

最後に、今後の広島大学の発展と皆様方のご健勝を心からお祈りいたします。

医学部附属病院看護部  
高本 宣子

（部局歴）  
昭34・4 医学部附属病院  
51・5 医学部附属病院看護部

昭和三十四年、霞キャンパス赤煉瓦の手術室に採用されました。当時は開頭術が低体温麻酔で行われ、私たちは患者さんを水水に浸し、凍傷を生じないように体温を下げることに一生懸命の日もありました。手術室の規模は小さく、家庭的雰囲気の仕事ができた反面、労働条件は過酷で、二年後私は離職し、家業に専念しました。しかし、姑の他界と三児の成長により、知的な生き甲斐を求めて、三十七歳の春再び就職しました。あの頃は、十年余りの空白を取り返すことができました。それは先輩の温かい配慮とご

看護婦の披露宴に参加して（写真中央）

指導、そして自分の若さと強い責任感の成果だと思っています。

今は、手術室はもとより全てが高度化し、若くても十年の空白が容易に取り戻せる状況ではありません。激動の社会、超高齢化、精神構造の複雑化等で、看護業務は改革に改革を重ねています。過渡期に定年を迎え、侘びしさを感じますが、上司・同僚に支えられ無事に退職できますことを、深く感謝いたします。

昭和三十四年に広島大学附属看護学校第一回生として卒業され、一時家庭に入られた後、昭和四十八年から再び看護業務に専念されました。特に、平成四年度の病棟・外来看護単位の一元化にむけては、優れた指導力と実践力を持つて多大な貢献をされました。その結果が平成七年度に新看護体系および夜間看護等加算の承認となったのです。



看護婦の披露宴に参加して（写真中央）

医学部附属病院看護部  
谷川 重子

（部局歴）  
昭32・4 医学部附属病院  
51・5 医学部附属病院看護部

昭和三十四年に広島大学附属看護学校第一回生として卒業され、一時家庭に入られた後、昭和四十八年から再び看護業務に専念されました。特に、平成四年度の病棟・外来看護単位の一元化にむけては、優れた指導力と実践力を持つて多大な貢献をされました。その結果が平成七年度に新看護体系および夜間看護等加算の承認となったのです。

若さと美観は後輩の羨望であり、知的で辛口な発言にもユーモアと暖かさを感じていました。また、卓越した遊び心には博識ぶりが窺え、良き範として数々のご教示を戴きました。退職後もますます生き生きと活躍されるとともに、ご健康とご多幸をお祈りいたします。  
(看護部 溝上 五十鈴 記)





三十数年前、図らずも看護職を生活の糧とする... 勤めとなりました。その間多くの方々を支えられ、お陰様で大過なく今日を迎えることができた。お世話になった皆様に心より感謝申し上げます。

私は、卒業と同時にそのまま学内にどまつたせいか、大した苦勞を感じることもありませんでした。また、業績とよべるものは特にありませんが、私なりに精いっぱい、楽しく勤めさせていただきました。

昭和三十二年に広島医科大学附属厚生女学院第六回生として卒業され、以来三十九年間、実直で責任感が強く、常に先駆的姿勢で看護業務の向上のために尽力されました。本当にご苦労さまでした。

特に、中央材料部においてはいはやく電算機を導入し多大なご功績を挙げられるとともに、物品管理をとおして優れた指導力を発揮されました。また平成五年度からは、主任看護婦長として手術部・材料部・ICU・東病棟・二・三階の六看護単位を管理し、看護部の方針を浸透させるために貢献されました。



還暦を記念しての旅行 シンガポールにて(本人中央)

平成八年一月末をもちまして、歯学部附属病院を退職させていただきます。皆様からの暖かいご指導とご支援によりまして今日を迎えることができました。とを、深くお礼申しあげます。

歯学部附属病院看護部 内藤 邦枝

〈部局歴〉 昭46・10 歯学部附属病院看護部 51・5 歯学部附属病院看護部

看護部長は、心配りと優しさで患者を支え、看護婦には卒後教育、管理者教育など看護レベルの向上を目指して猪の如く突進してこられました。その気迫が、外来看護のなかに看護度を導入し、看護過程を展開するという画期的な看護を推進してきました。今後も、常に前進するという気迫を私たちにお示しくださるようお願いいたします。

歯学部業務課 谷口 知之

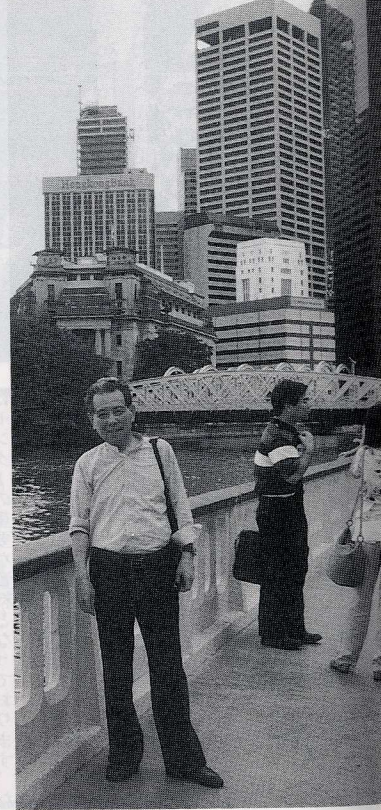
〈部局歴〉 昭31・10 会計課 37・1 原爆放射能医学研究所 41・8 経理部経理課 49・4 理学部 54・4 歯学部 57・4 総合科学部 60・4 庶務部企画調査課 61・4 法学部・経済学部 63・4 教務課 平3・4 歯学部 4・10

昭和三十二年秋九月、面接試験の日からもう四十年、あつという間に公務員生活最後の年とは...



平成7年歯学部事務親睦会旅行 栗林公園にて(2列目右端)

スラバヤ大学の帰路 シンガポールにて



時間を歯学部で過ごさせていただきました。その間には、多くの方々との素晴らしい出会いがありました。日常の業務以外にも教室旅行に参加させていただきましたこと、事務部の方々との忘年会、そして看護部の人々と夜遅くまで看護について語り合ったことなどが懐かしく蘇ってまいります。

工学部事務部 秋本 良彦

〈部局歴〉 昭29・2 会計課 39・4 経理部主計課 47・4 医学部 49・4 経理部主計課 56・9 事務局分室 59・5 経理部主計課 62・4 庶務部企画調査課 平3・4 教育学部 5・4 工学部

昭和二十九年三月、詰め襟の学生服で、おどししながら木造二階建の本部庁舎に初出勤。会計課に奉職以来、数多くの先生方、諸先輩、同僚、後輩に支えられ、ようやく無事定年を迎えることになりました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

退職後の職場も決まっていると聞きました。これからは、高齢化社会に役立つ看護を目指して頑張りたいと思います。(歯学部附属病院看護部 藤田 富美子 記)



1995年10月 海外実施視察(イギリス・フランス) 文部省、医・歯附属病院看護部長と共にナイチンゲールが設立した病院の前で

歯学部附属病院看護部 野村 美穂子

〈部局歴〉 昭32・4 医学部附属病院 43・4 歯学部附属病院 51・5 歯学部附属病院看護部

この間、人と人との関わりの中から生きることのすばらしさを学ばせていただきました。患者さんや家族の方々と歩んだ道、看護の仲間と支えあつた道は、私の宝として終生忘れことなく大切にしたいと思います。

長い間ご指導、ご尽力を賜りました皆様にご心よりお礼を申し上げます。有難うございま

工学部共通講座応用数学 板垣 京子

〈部局歴〉 昭36・7 工学部

仕事納めの日、「在職中、一番思い出に残っておられることは？」とお聞きすると、「初代事務局分室長として統合移転業務を行った五十七年の工学部の移転だ」と言われた。

昨日は、「工学部七十五周年記念事業」を陣頭指揮され、一緒にこの事業に参画できたことが、私に、これから生きてくるであろう変化・変革に対しプラス発想で積極的に取り組めば、どんな問題、どんな事態にも適切に対処していけることを身を持ってご指導いただきました。





「二十年勤めたら恩給がつくんだから頑張れよ」

広島大学に採用された私に、今は亡き父が言いました。その時は、二十年間なんてとてもとも、と思いましたが、なんと三十六年間勤めさせていただきました。この間、多くの先輩方のご指導、ご助言のおかげで、どうか大過なく勤めることができました。ここに深く感謝し、併せて心よりお礼申し上げます。日本鋼管誘致による皿山から福山市内への移転、また大学統合による福山から東広島市への移転等、過ぎし日の諸々の出来事が懐かしく、次から次へと浮かんでまいります。今は良き思い出です。

これからは、八十二歳になるまで家事を一手に引き受けてくれた義母に替わって、専業主婦になる予定です。

最後に、広島大学の発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

早川さん、三十六年にわたる長いお勤めご苦労さまでした。まだまだやる気十分のところ、ご家庭の事情ということでやむを得ません。早川さんは図書館に長く勤務されましたが、その手腕を買われ、統合移転を控えた生物生産学部用度係に配置換えとなり、見事にその激務をこなされました。また、附属学校部三原附属学校係に配置換えとなつてからも、そのテキパ

キとした仕事ぶりに、教職員から厚い信頼を寄せられてきました。特に、教育実習期間中は、実習生に対し優しく、時には厳しく接し、よく面倒をみてこられました。今、早川さんをお送りすることは残念ですが、退職後は家事に専念される由、健康に留意され、楽しい第二の人生を送られるようお祈りします。  
(附属学校部 小川 博史 記)

附属学校部

綱掛 ミサコ

〈部局歴〉  
昭50・10 教育学部附属三原小学校  
53・6 附属学校部

昨年までは他人事のように思っていた人生の大きな節目、定年の日が目の前にやって参りました。

果たして勤めが出来ますかどうかと心配の毎日でしたが、無事にこの日を迎えることができました。感無量でございます。

学園でお世話になって二十四年間、至らぬ私が大過なく元気で勤務できましたのも、多くの皆様に支えられご指導いただきましたからこそと、ただただ感謝の気持ちでいっぱいでございます。明るく職場で可愛い子どもたちに囲まれて、同僚の皆さんと毎日楽しく仕事ができましたこと、最高の幸せと喜んでおります。

これからは、何事にも感謝の気持ちを忘れず、人生を大切に、心豊かな日々を送ることが出来ますように、と願っております。今後ともよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、皆様方のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。



さあ、これから給食の時間です。当番さん頑張ってくださいね。可愛い私の宝です。

綱掛 ミサコ

綱掛さんはとても真面目で、「いいかげん」を許さない仕事ぶりでした。それでいて楽しい人です。給食室はいつも明るく健康的でした。子どもたちの将来の夢がかなう元氣な体づくりを仕事するには、ピットリの人です。保護者、児童、教職員から信頼される学校給食を築きあげること力いっぱい努力してこられました。子どもたちは、毎日、おいしくて楽しい給食時間を過ごしています。

今までは、仕事第一の生活だったと思います。どうぞこれからは自分を一番にして、楽しい日々を送ってください。残った者は綱掛さんの仕事を引き継いで、今まで以上頑張っていきます。一緒に仕事をさせていただいてありがとうございました。長い間、本当にご苦労さまでした。  
(附属学校部 野村 紀枝 記)

附属学校部

谷本 キミコ

〈部局歴〉  
昭44・5 水畜産学部  
54・4 教育学部福山分校  
63・6 附属学校部

皆さんこんにちは。私は、三原附属学校係の谷本キミコと申します。

私が広大へ勤め始めた昭和四十四年頃、用務員は七人でした。これまでの二十七年間に

附属高校村本君 日本学生科学賞 文部大臣奨励賞を受賞



全日本科学振興委員会・読売新聞社主催の「第三十九回日本学生科学賞」高校・個人の部において、本学附属高等学校二年の村本哲哉君が出品した「スナガニ類の生理と生態―その陸上への適応戦略―」が文部大臣奨励賞を受賞しました。

この賞は、わが国の科学教育の振興と顕彰を図る賞として最も高い評価を受けており、受賞は、附属高校始まって以来の快挙です。また、今年五月に開かれる第四十七回国際学生科学技術博覧会への出場が、一月二十日に東京・新宿の京王プラザホテルで行われた表彰式において発表されました。

審査委員長の日本科学教育振興委員長 大木道則先生は、「中学校時代にも優れた作品を提出した個人が、再び優秀な作品を提出したものである。このような継続性が優れた科学者につながることは、いかに期待したい」と読売新聞紙面上で異例の講評をされています。

カニ類の陸生化への適応戦略

写真 村本 哲哉  
Muramoto, Tetsuya



今回の、「スナガニ類の生理と生態―その陸上への適応戦略―」は、研究を始めた小学校六年からの研究の集大成として発表したものである。

小学校六年の夏、はさみ脚を上下に振るカニに興味を持って以来、スナガニ科四種のはさみ振りや広島湾の干潟におけるカニ類の分布、さらには干潟に生息するカニの生活史について調べてきた。

スナガニ科のカニのはさみ振りを調べた研究では、四種類ともはさみ振りには求愛の意味があり、時には威嚇の意味があることがわかった。また、分布調査では日本の絶滅のおそれのある野生生物―レッドデータブック―や広島島の絶滅のおそれのある野生生物―レッドデータブックひろしま―で希少種に指定されているハクセンシオマネキを太田川などで発見することができた。一方、生活史の調査ではそれぞれのカニの寿命を明らかにすることができた。

そういった中で、カニがほかの生物と同様に陸上へ移行しているように思われた。そこで、カニ類の陸生化への適応戦略を、形態的、生理的、生態的な面から調べ、その戦略を明らかにした。

戦略には、口器の複雑化、浸透圧の低下、体に対するえらの体積比の減少、配偶行動の発達などがあげられる。また、同じような感潮域に生息するスナガニ科とイワガニ科ではこれまでの進化の過程が違っていることを推定できた。

これらの研究ができた背景には、多くの方々からの協力や助けが得られた。研究のはじめから指導をいただいた久家光雄先生をはじめとして、多くの先生方に感謝いたします。